

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

恵泉女学園は、キリスト教信仰を教育の基盤として、真理を謙虚に探究し、自然を慈しみ、愛と奉仕の精神をもって世界の平和に貢献することのできる、自立した女性の育成を図ることを目的として、昭和4（1929）年に河井道によって創設された。この学園の理念は「神を畏れ、人を愛し、いのちを育む」というものである。

恵泉女学園大学は、学園創立者河井道の精神と教育理念を現代に生かす大学である。すなわち、真理の探究と人間性の育成を指針とし、国際理解と園芸を重視し、世界に向かって心を開くとともに、生命あるものを培い育てる中で生命の尊厳を知るという、明確な方向性をもった教育を行う目的のもと、昭和63（1988）年に開学した女子の大学である。

さらに、平成28（2016）年度より「生涯就業力」の育成を掲げ、「どんな環境にあっても目標を見失わず、生涯にわたって常に自分自身を磨き、精神的・社会的・経済的な自立を目指しつつ、地域や社会に尽くすことに喜びを見出しながら、しなやかに、したたか（強か・健か）に生きる女性の養成」を教育目標としている。これを踏まえたディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）は以下のとおりである。

- 1）国内外の社会・文化を理解する基礎的知識と見識を有し、論理的・批判的に考え、日本語で表現・発信する力を身につけている。
- 2）グローバル社会に通用する第二言語を習得し、多文化・異文化に開かれた豊かな国際感覚と共感力をもって、平和な社会の実現に積極的に寄与しようとする姿勢を身につけている。
- 3）土に触れ、いのちを育む生活園芸を通じて、多様ないのちとの共生と循環を体感し、多様な人々と偏見なく繋がり共生・協働しようとする態度を身につけている。
- 4）国内外での実践的な学修経験を積み、社会の課題に気づき、解決のためのシナリオを描く自律的な思考力と、粘り強い姿勢をもって自ら行動し、学び続ける力を身につけている。

本学は、以上のような理念に基づいた少人数教育による教養（リベラルアーツ）教育を旨とし、「真理と平和を愛し、国際的な視野に立って文化の進展と社会の福祉に貢献できる有為な女性を育成する」大学である。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

<日本語日本文化学科>

日本語日本文化学科は、日本語学、日本文学、日本史学、社会学等を中心的な学問分野として、日本語に関する専門的知識と実践的能力の確実な習得とともに、日本文学や文芸創作に関する基礎的な技能の獲得や日本文化についての理解を深めることを目的としている。すなわち、日本の言語と文化に関する知識と実践力を有したうえで、地域社会・国際社会の発展に生涯にわたって貢献できる人材の養成を目指している。

日本語日本文化学科のディプロマ・ポリシーは、以下のとおりである。

- 1）日本語・日本文学・日本文化史の3つの領域について幅広い知識と教養を持つとともに、各自が選択した分野について専門的な知識と情報探索及び収集能力を持ち、実践的な研究を行う力がある。
- 2）外国語については、日本文化を海外に発信するために必要な語学力を習得しており、日本文化についてわかりやすく説明することができる。日本語については、古典から近現代に至る幅広い文献を批判的に読解する力を持ち、それらを踏まえたうえで、自分の意見を口頭及び文章によって適切に表現することができる日本語運用能力を持つ。
- 3）日本語・日本文学・日本史・日本美術史の各分野においては、自ら進んで課題を発見し、適切な方法を用いてそれを解決するための道筋を構想することができ、最終的に妥当性のある結論に至る論文を作成することができる。
- 4）創作分野においては、作品を企画・構想し、教員の指導のもとに制作し、相互に批評し合うこ

とによって質を高め、最終的に完成させることができる。すなわち、創作活動を客観的に評価する態度を身につけることによって、自らを相対化したうえで創作活動に取り組む能力を持つ。

<英語コミュニケーション学科>

英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション、言語芸術、英語教育を中心的な学問分野として、総合的な英語コミュニケーションに関する基本的知識と実践的能力の確実な習得とともに、英語教育に関する基礎的な知識と技能の獲得及び英語圏の文学、演劇などの言語芸術に関する理解を深めることを目的としている。すなわち、英語の知識と技能の習得とともに、英語圏の社会や文化、文学に関する幅広い知識を有したうえで、地域社会・国際社会で活躍できる人材を養成することを目指している。

英語コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーは、以下のとおりである。

- 1) 正確な英語運用能力と豊かな感性・対話スキルを身につけ、教育・生活上の実践的な場面で多様な言語的・文化的背景の人々と英語でのコミュニケーションを行うことができる。
- 2) 言語としての英語や英語圏の言語芸術・文化・社会等に関する専門的知識を有すると共に、さらに国内外の言語・文化・社会等についても関心を広げ理解しようとする態度を身につけている。
- 3) 情報を批判的に読み取る力と論理的・多角的な思考方法を身につけ、自らの考えを英語や日本語で的確に表現することができる。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

<教員養成の目標>

恵泉女学園大学は、前述の開学理念である「神と人にとに仕え、自然を慈しみ、世界に心を開き、平和の実現のために貢献できる女性」の育成を目標に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、昭和 63 (1988) 年の開学時から一貫して少人数教育を守ってきた。それは、一人ひとりの学生の能力と人間性を育て、個性に寄り添いながら、世界の平和を創る女性として育つための教養（リベラルアーツ）教育に注力するためである。その教育の成果は、開学から 30 年以上を過ぎた現在、国内はもちろん世界の様々な場所で幅広く社会の福祉に貢献する有為な女性を輩出したことに表れている。

とりわけ開学年度入学 1 期生から履修が開始された教職課程での中学校・高等学校教員免許取得者は、国語科と英語科を合わせて現在までに 700 名を超えている。さらに、各年度の履修生の平均 3 割、多い年度では 5 割が教職や教育関連の職業を選択し、現在も教育、福祉、教育関連企業等で活躍している。卒業生の傾向として顕著な点は、卒業後に特別支援教育や小学校教諭、保育士等の資格を取得し、特別支援学校、保育園、障害者施設等に奉職するケースが少なくないことである。さらに近年は、英語科や国語科にとどまらず、家庭科や体育科など他教科の免許取得を目指す卒業生や、子育てを経て地域の不登校児童生徒のための適応教室、学童クラブ、特別支援学校等で指導員として勤務する卒業生も増える傾向にある。

大学を取り巻く諸事情から再課程認定申請を見送るという期間が生じた。しかし、学園創立者河井道教育理念、および受験生・保護者・地域社会や関係諸団体からの教職課程再開の要請、ならびに教員免許取得者の卒業後の社会貢献を踏まえ、教員養成は本学の社会的使命とであるとして、令和 5 (2023) 年度の開設を目指すに至った。

以上の経緯と実績に基づき、本学の教員養成の目標は、いのちへの畏敬の念と人権感覚を有する温かな人間性、確かな指導力、高い専門性とコミュニケーション能力を有する、教育愛と奉仕の精神に優れた教師を養成することによって、人々の心の平安と世界の平和の実現に貢献することである。

<目標達成のための計画>

1) 目指す教師像

これからの教師に求められる資質と力量は、教職に対する強い情熱（使命感と子どもへの愛情

など)、教育の専門家としての確かな力量(生徒理解、生徒指導、学習指導の力など)、総合的な人間力(社会性、常識と教養、対人関係能力など)はもちろん、研究と修養に努め専門性の向上のために学び続ける姿勢および、「チーム学校」の一員として役割と責任を果たす協働性などである。

これを受けて本学では、教員養成の目標を達成するために、各学科の教職課程においては、教職の専門性と教科の専門性を高めるとともに、総合的に学んだ知識を統合する力、知識を活用し新しいものを創造する力、さらにその過程で育まれる思考力・判断力・行動力を高めることを通して、全人的に教育に関わるための専門職としての力量形成に主眼を置く。さらにその基盤となる資質として、キリスト教の「隣人愛」に基づいた奉仕の精神、多様性や協働性を尊重した共生の精神、ならびに時代の変化や課題に柔軟に対応し物事の本質を捉えて課題解決の道を切り開くための論理的思考力と批判的思考力を涵養する。本学の教育理念に基づいた目指す教師像は、以下のとおりである。

- ・ 教師としての専門性、生徒理解、指導力、協働性に優れた教師
- ・ 課題や現状を把握し、解決や改善のために粘り強く考え、行動する教師
- ・ 生徒と共に歩み、生徒を生涯に渡って見守り続ける、教育愛に満ちた教師
- ・ 生徒や周囲の人々の心に寄り添い、自己を愛するように他者を尊重する教師
- ・ 世界や社会の動きに関心を持ち、常に学び続ける教師
- ・ 偏見や差別に立ち向かう、人権感覚に優れた教師
- ・ 自然を慈しみ、いのちを尊び、平和のための奉仕者として喜びをもって働く教師

2) 学びの方法

以上のような教師としての資質と力量の向上のために、学生は、教職専門科目や教科科目を通して広い視野から基礎知識と技能を獲得しながら、さまざまな教育現場での参観実習やインターンシップを通して、教職の意義と役割を体験的に学ぶ。その際の学びや気づきから各自の問いを言語化し、発表や対話を通して論理的思考力や批判的思考力を身につける。その発表や討論では ICT 機器を活用したプレゼンテーションを行うことを日常化し、機器の効果的な活用を工夫しながら、総合的なコミュニケーション能力に対する感性と技能を養う。同時に、教育の思想や歴史、制度や指導方法など、さまざまな教育の在り方や学校現場の課題をはじめ、環境や人権の問題など、地球規模の課題についても教育との関係から幅広く学ぶ。それらによって、予測不能な時代に生きる子どもたちへの教育の意味や、社会的役割についての洞察を深め、新しい時代の教師としての在り方や生き方を卒業までに明確にできるよう指導する。

具体的には年間を通してのガイダンスや個別面談、卒業生の現職教師や地域の教育関係者との交流を含めた様々な機会を設け、自己省察の機会を重ねることで、教わる立場から教える立場への意識の転換を促し、積極的で主体的な教職への取り組みを強化する。さらに、教職課程の科目履修においては、1年次からすべての科目を履修するのではなく、学年進行で履修できる科目を設定し、段階的に教職への意識と技能を高められるよう指導する。また、学びの方法としては、以下の3つの側面を重視する。

- ・ 仲間と共に学ぶ：生徒の発達段階や習熟度に応じた授業の構成、教材の工夫、対話的学びを促進するための技術と ICT 機器の活用方法など、様々な体験と仲間とのグループワークや討論、ロールプレイなど、協働作業を通して対話しながら指導技術の基礎を修得する。
- ・ 出会いから学ぶ：教育関係の課題図書を読んだり、教育現場でのインターンシップやボランティアを行ったりすることを通して、ロールモデルとなる教師と出会い、具体的な場面でプロの仕事に触れながら、自身の目指す教師像の構築に取り組み、教職への意欲を具体化する。
- ・ 体験から学ぶ：学生はスクールインターンシップやボランティア活動のために地域の学校で指導補助を行ったり、介護等体験の施設や特別支援学校を訪問して事前学習を行ったりする。現場に身を置くことで気づいた教職の意義や教師の役割を通して自らの課題を発見し、理論や指導法と関連付けて主体的に学ぶ。物事の本質を深く捉え、粘り強く考え、解決の道を模索しながら教育課題に対する洞察を深める。

3) 教職課程履修条件とサポート体制

本学教職課程では、1 年次春のガイダンス時に、教職課程履修の条件として 1 年間で達成すべき課題を示す。それは、実用英語技能検定（英検）/日本漢字技能検定（漢検）2 級の受験と合格、福祉施設や特別支援学校での 2 日以上ボランティア体験報告、教育関連図書のブックレポート提出である。これらの課題に取り組むことを通して教職に対する意欲と資質に関する自己確認を行い、2 年次以降は以下の学修環境の中で一人ひとりの学生の進路選択をサポートする。

- ・教員採用試験対策講座：定期的に英検/漢検対策講座が開かれ、2 級～準 1 級に合格するための支援を行うとともに、教員採用試験対策講座（専門教科、教職教養、論作文・面接対策）を定期的に開講する。
- ・教職ライブラリー：教職ライブラリーは、教職課程履修生が自由に立ち入りできる図書室である。教科書、参考書、学習指導要領などは自由に閲覧でき、模擬授業のための指導案作成に必要な教材・教具・機器も備えている。教員採用試験や求人情報も掲示・展示され、常時解放されている学習室でもある。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

<日本語日本文化学科の教職課程の目的>

日本語日本文化学科における教職課程の目的は、国語科教育を通して世界の平和に貢献できる人材を育成することにある。本学開学から現在までの国語科教員免許取得者は、300 名を超え、その一割以上が現在も国語科教師をはじめとする教育者として東京都の公立学校はもちろん、日本国内の公立・私立学校で指導的な立場で新しい時代の国語教育に貢献している。さらに、大学院に進学した卒業生や海外在住の卒業生も、それぞれの教育に関する分野で幅広く活躍しており、グローバルな視野と人権感覚をもって、「神を畏れ、人を愛し、いのちを育む」生き方を貫いている。

このような実績と伝統を継承し、本学が令和 5（2023）年度から開設する新たな本教職課程では、日本語学、日本文学、日本史学、社会学等を中心に、文化及び社会についての幅広い知識と見識を養い、国語教育を通して世界が直面している地球規模の課題の解決に主体的に参加しようとする姿勢と技能を育成する。そのために、国語および日本語に関する幅広い専門知識とともに、地球全体が抱える問題を自分事として取り組む体験を積みながら、主体的・対話的な学びの中で自己教育力を高め、生徒一人ひとりを大切に、共に歩み、人からも仕事からも常に積極的に学び続ける人間性豊かで指導力の高い国語科教師を世に送り出すことを目的とする。

<英語コミュニケーション学科の教職課程の目的>

英語コミュニケーション学科における教職課程の目的は、英語教育を通して世界の平和に貢献できる人材を育成することにある。本学開学から現在までの英語科教員免許取得者は、400 名を超え、その一割以上が現在も英語科教師をはじめとする教育者として、東京都の公立学校はもちろん、日本国内の公立・私立学校で指導的な立場で新しい時代の英語教育に貢献している。さらに、大学院に進学した卒業生や海外在住の卒業生も、それぞれの教育に関する分野で幅広く活躍しており、グローバルな視野と人権感覚をもって、「神を畏れ、人を愛し、いのちを育む」生き方を貫いている。

このような実績と伝統を継承し、本学が令和 5（2023）年度から開設する新たな本教職課程では、英語学、英米文学、英語圏の歴史と文化及び社会についての幅広い知識と見識を養い、英語運用力を通して世界が直面している地球規模の課題の解決に主体的に参加しようとする姿勢と技能を育成する。そのためには、英語に関する幅広い専門知識とともに、地球全体が抱える問題を自分事として取り組む体験を積みながら、主体的・対話的な学びの中で自己教育力を高め、生徒一人ひとりを大切に、共に歩み、人からも仕事からも常に積極的に学び続ける人間性豊かで指導力の高い英語科教師を世に送り出すことを目的とする。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

<日本語日本文化学科 中学校教諭一種免許状（国語）>

学習指導要領の改訂により、教師が何を教えるかという観点から移行して、児童生徒が学びを通してどのような力をつけるのか、その力をどのように活用するのかという観点が浮き彫りにされた。そ

して、教育によって育むべき三つの資質として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」が示された。特に国語科においては、「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること」を「言葉による見方・考え方」と位置づけている。つまり、国語科においては「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」を育むことが求められている。言葉への自覚を高めることが国語科の本質的な意義であると明示され、語彙指導の系統化をはじめとした5つの改善がなされている。しかも国語を通して「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められ、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の実現に向けた授業改善が喫緊の課題となっている。

このような社会の変化と教育的要請に対して、本学日本語日本文化学科は、中学校国語科教諭としての資質と指導力を育成するために必要な教育を強化してきた。たとえば、少人数制による研究発表や討議をはじめ、対話を重視した活発な言語活動による主体的な深い学びの場を広げ、日本語での発信力強化に繋がる、スピーチ、ICTを活用したプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を日常的に行っている。これらを通して、アウトプットする統合型の言語活動を推進し、学生の日本語コミュニケーション能力を高めるための実践を重ねてきた。その教育の成果として、これまで多くの国語科教諭を輩出し、その殆どは経験と技能・学識を備えた学び続ける教師として現在も教育現場で幅広く活躍し、大学院での学びを経て日本語教師や国語科教諭の教員養成の立場に就いた者もいる。このような伝統と実績に基づき、今後のわが国の次世代を担う国語科教諭を養成することは本学科の社会的使命であると捉え、本学科に中学校一種免許状（国語）の取得が可能な教職課程を設置する。

<日本語日本文化学科 高等学校教諭一種免許状（国語）>

学習指導要領の改訂により、教師が何を教えるかという観点から移行して、生徒が学びを通してどのような力をつけるのか、その力をどのように活用するのかという観点が浮き彫りにされた。そして、教育によって育むべき三つの資質として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」が示された。特に国語科においては、「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること」を「言葉による見方・考え方」と位置付けている。つまり、国語科においては「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」を育むことが求められている。言葉への自覚を高めることが国語科の本質的な意義であると明示され、語彙指導の系統化をはじめとした5つの改善がなされている。しかも国語を通して「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められ、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の実現に向けた授業改善が喫緊の課題となっている。さらに、高等学校国語科では科目構成が「現代の国語」「言語文化」「倫理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」と変化したことは、わが国の言語文化に対する理解に加え、生きるための言語能力の育成としての「論理的・批判的に考える力」や「創造的に考える力」の涵養に重点を置いていることが分かる。

このような社会の変化と教育的要請に対して、本学日本語日本文化学科は、高等学校国語科教諭としての資質と指導力を育成するために必要な教育を強化してきた。たとえば、少人数制による研究発表や討議をはじめ、対話を重視した活発な言語活動による主体的な深い学びの場を広げ、日本語での発信力強化に繋がる、スピーチ、ICTを活用したプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を日常的に行っている。これらを通して、アウトプットする統合型の言語活動を推進し、学生の日本語コミュニケーション能力を高めるための実践を重ねてきた。その教育の成果として、これまで多くの国語科教諭を輩出し、その殆どは経験と技能・学識を備えた学び続ける教師として現在も教育現場で幅広く活躍し、大学院での学びを経て日本語教師や国語科教諭の教員養成の立場に就いた者もいる。このような伝統と実績に基づき、今後のわが国の次世代を担う国語科教諭を養成することは本学科の社会的使命であると捉え、本学科に高等学校一種免許状（国語）の取得が可能な教職課程を設置する。

＜英語コミュニケーション学科 中学校教諭一種免許状 外国語（英語）＞

学習指導要領の改訂により、これまでは教師が何を教えるかという観点から、児童生徒が学びを通してどのような力をつけるのか、その力をどのように活用するのかという観点が浮き彫りにされた。そして、教育によって育むべき三つの資質として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」が示された。さらに、これまでは「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「読むこと」の4技能だったものが、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」に分化し、4技能5領域に変わり、「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション能力が重要視されるようになった。しかも教材にはSDGsが含まれ、国際社会が抱える課題に対して主体的に取り組む態度の養成も急務となっている。さらに、中学校英語科は、小学校英語の習得が前提であり、さらにこれまで高等学校の範囲だった文法事項の一部が中学校の学習内容に加わった。この新しい「外国語科（英語）の目標」では、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、話し手や聞き手の意図や心情に応じた適切な表現や、相手の背景にある文化に対する理解や配慮とともに、主体的・自律的に英語を用いて対話する態度の重要性が示されている。しかも英語を通して「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められ、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の実現に向けた授業改善が喫緊の課題となっている。

このような社会の変化と教育的要請に対して、本学英語コミュニケーション学科は、中学校英語科教諭としての資質と指導力を育成するために必要な教育を強化してきた。たとえば、ペアワークやグループワークによる学習形態を学生に浸透させ、英語での発信力強化に繋がる、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を活発に行っている。特に、ICTを活用したアウトプットと統合型の言語活動を推進し、学生の英語コミュニケーション能力を高めるための実践を重ねてきた。これまでの教育を通して、多くの中学校英語科教諭を輩出し、その多くは海外留学と大学院進学を経て、経験と技能を備えた学び続ける教師として現在も教育現場で幅広く活躍し、大学で英語科教員養成に携わっている者もいる。このような伝統と実績に基づき、今後のわが国の次世代を担う教育者を養成することは本学科の社会的使命であると捉え、本学科に中学校一種免許状外国語（英語）の取得が可能な教職課程を設置する。

＜英語コミュニケーション学科 高等学校教諭一種免許状 外国語（英語）＞

学習指導要領の改訂により、外国語コミュニケーションに対する見方・考え方が整理され、「三つの柱」に基づいて目標が明確化された。この新しい「外国語科（英語）の目標」では、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、話し手や聞き手の意図や心情に応じた適切な表現や、相手の背景にある文化に対する理解や配慮とともに、主体的・自律的に英語を用いて対話する態度の重要性が示されている。しかも英語を通してどのように社会や世界と関わりより良い人生を送るかという「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が喫緊の課題となっている。

このような社会の変化と教育的要請に対して、本学英語コミュニケーション学科は、高等学校英語科教諭としての資質と指導力を育成するために必要な教育を強化してきた。たとえば、ペアワークやグループワークによる学習形態を学生に浸透させ、英語での発信力強化に繋がる、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を活発に行っている。特に、ICTを活用したアウトプットと統合型の言語活動を推進し、学生の英語コミュニケーション能力を高めるための実践を重ねてきた。これまでの教育を通して、多くの英語科教諭を輩出し、その多くは海外留学や大学院進学を経て、経験と技能を備えた学び続ける教師として現在も教育現場で幅広く活躍し、大学で英語科教員養成に携わっている者もいる。このような伝統と実績に基づき、今後のわが国の次世代を担う教育者を養成することは本学科の社会的使命であると捉え、本学科に高等学校一種免許状外国語（英語）の取得が可能な教職課程を設置する。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教職課程運営委員会
目 的：	教職課程のカリキュラム及び運営について、協議・決定する。
責 任 者：	岩佐 玲子
構成員（役職・人数）：	委員長 1 名 委員 5 名 事務担当職員 1 名
運営方法：	月 1 回程度会議を実施し、教職課程学生の履修状況確認及び指導方法の決定や、履修学生の相談事項の共有、他教職課程に関することを協議する。

②

組織名称：	日本語日本文化学科 学科会
目 的：	学科カリキュラム及び運営について協議するとともに、学科学生の情報を把握・共有する。
責 任 者：	水上 晃実
構成員（役職・人数）：	学科教務委員 1 名 学科所属教員 8 名
運営方法：	月 1 回程度会議を実施し、学科学生の履修状況・生活状況の確認及び指導、学科カリキュラムの運営について協議し、その他教職課程委員会をはじめとする各委員会からの情報共有を行う。

③

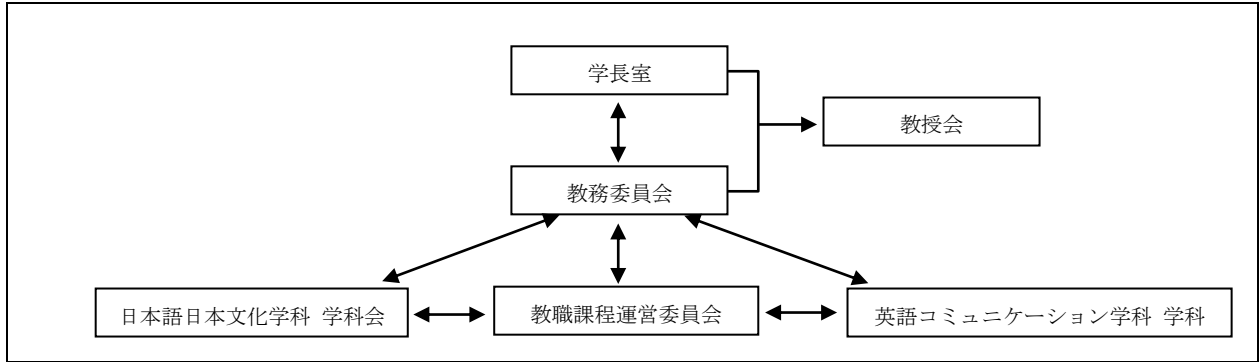
組織名称：	英語コミュニケーション学科 学科会
目 的：	学科カリキュラム及び運営について協議するとともに、学科学生の情報を把握・共有する。
責 任 者：	越智 健太郎
構成員（役職・人数）：	学科教務委員 1 名 学科所属教員 11 名
運営方法：	月 1 回程度会議を実施し、学科学生の履修状況・生活状況の確認及び指導、学科カリキュラムの運営について協議し、その他教職課程委員会をはじめとする各委員会からの情報共有を行う。

④

組織名称：	教務委員会
目 的：	大学全体のカリキュラム及び運営について協議するとともに、学生の修学情報を把握し、進級・卒業判定について協議する。
責 任 者：	稲本 万里子
構成員（役職・人数）：	教務委員長 1 名 副委員長 1 名 学科教務委員 4 名 事務担当職員 2 名
運営方法：	月 1 回程度会議を実施し、学生の履修状況確認及び指導方法に関する協議・決定、教職課程委員会をはじめとする教務関連各委員会の情報を共有、全体カリキュラム上の課題等の確認と協議を行う。

様式第7号イ

(2)(1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

本学は、多摩市との大学協定を締結しており、多摩市教育委員会とも連携関係にある。多摩市子ども未来会議への支援や、不登校児童生徒への特別授業の会場提供、多摩市内公立学校への学生ボランティア派遣に加え、2021年度からは多摩市子どもの読書推進事業にも参画している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	恵泉女学園大学お話を語る会（恵話会：けいわかい）
連携先との調整方法：	地域の学校、社会福祉施設や児童館、図書館等と担当教員が電話やメールで日程調整を行ったのち、会場下見や打ち合わせに学生も参加し、地域の方と共に企画を練る。
具体的な内容：	学生が上記機関を訪問し、絵本や手遊び、わらべ歌を通して、日本語の楽しさや美しさを子どもたちや地域の方々に伝える活動を行っている。活動内容を企画実行することにより、社会貢献への意欲が高まり、社会人基礎力はもちろん、表現力や共感性が磨かれる。

②

取組名称：	恵泉女学園大学英語教育研究会（Keisen English Education Society：KEES キーズ）
連携先との調整方法：	地域の学校、社会福祉施設や児童館、図書館等と担当教員が電話やメールで日程調整を行ったのち、会場下見や打ち合わせに学生も参加し、地域の方と共に企画を練る。
具体的な内容：	学生が上記機関を訪問し、英語による絵本の読み聞かせや歌、ゲームなどを通して、英語の楽しさを子どもたちに伝える活動を行っている。活動内容を企画実行することにより、社会貢献への意欲が高まり、社会人基礎力はもちろん、英語での表現力が磨かれる。

③

取組名称：	恵泉女学園大学平和紙芝居研究会（Keisen Peace Kamishibai Association：KPKA クプカ）
連携先との調整方法：	地域の学校、社会福祉施設や児童館、図書館等と担当教員が電話やメールで日程調整を行ったのち、会場下見や打ち合わせに学生も参加し、地域の方と共に企画を練る。
具体的な内容：	学生が上記機関を訪問し、紙芝居や手遊び、歌などを通して交流する。紙芝居のテーマを、「愛」、「平和」、「命」に絞り、平和の尊さを地域の人々と分かち合い、平和

の語り部を地域に育てるための活動を行っている。作品や対象によっては英語で演じる場合もある。活動内容を企画実行することにより、社会貢献への意欲が高まり、社会人基礎力はもちろん、表現力や共感性が磨かれる。

Ⅲ. 教職指導の状況

本学は一人ひとりの学生の学びの姿勢を重視し、それぞれの事情に寄り添い、学生の利益を最優先に考えたきめ細かな支援に努めている。それは、教職課程においても同様であり、下記に示すとおり、定期的に個別面談を行い、傾聴に徹することによって学生の教職への熱意が損なわれないよう配慮し、主体性と責任を持って教員免許取得に取り組むことができるよう支援していく。

教職課程運営委員会は6名の教員で構成され、専任教員はもとより、教務課の担当職員や教職科目担当の非常勤講師とも連携し、学生一人ひとりひとりに寄り添う指導を行っていく。具体的には以下の3点を重点事項とする。

(1) 教職課程ガイダンスによる指導

初年次から教職課程ガイダンスを行うことによって、教員免許取得に関心のある学生が安心して履修できるよう指導体制を整える。ガイダンスでは教職課程履修ハンドブック（教職課程の理念、履修方法、留意点等をまとめた冊子）を配布し、履修に関する知識と履修計画の確認が常時できるようにするとともに、教職の意義、卒業後の進路、教員採用試験対策講座の説明も行う。学年別に、各年度の4月、10月、1月など複数回実施することで、学生が教職への具体的道筋を確認し、計画的に学修を進め、安心して目標に向かって取り組むための切れ目ない支援体制を維持していく。

(2) 卒業生や上級生による指導

長期休暇中には卒業生の現職教師や地域の教育関係者を招いてワンデイキャンプを行ない、体験談を聞いたり交流したりする機会を提供する。それにより、理想の教師像を描いたりキャリアプランを立てる参考にしたりできるような関係構築の環境を提供していく。在学中に異年齢の仲間と出会うことのできる場を設けることで、卒業生や上級生との関係が卒業後も継続し、職業上の課題や人生の岐路に直面した時に支え合える関係の発展を促す。

(3) 個別相談と支援体制による指導

学生の不安や疑問に対しては、教職課程運営委員や教務課担当職員、教職科目担当非常勤講師に随時相談できる環境を整える。即答できない質問や相談については、委員会での協議を経て適切な助言を学生に提供する。たとえば、本学では4年間の在学中に長期留学と教員免許取得を両立させることはかなり困難なことではあるが、そのような希望者がいる場合は、本人との面談や討議を重ね、本人の意欲、成績、教職への熱意等を確認したうえで、綿密な履修計画を立て、本人の希望に寄り添う方向で最大限の調整を図っていく。

様式第7号ウ

<日本語日本文化学科> (認定課程: 中一種国語)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	①教育についての基礎的知識を得る。 ②現代教育に関する基礎的基盤(日本国憲法を含む)を理解する。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④日本語、日本文学等の教科内容の基礎について理解する。
	秋学期	①教育についての基礎的認識を図り、教科内容について理解する。 ②教育についての基礎的知識を得る。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④日本語、日本文学等の教科内容の基礎について理解する。
2年次	春学期	①教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自らの教職キャリア形成を展望する。 ②道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ③教育に関する理念と歴史、制度について理解する。 ④参観実習(スクールインターンシップ)を通して、教科指導以外の教師の職務に触れ、生徒理解や組織運営の全体像を把握する。 ⑤教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連付けて理解する。 ⑥日本語、日本文学、語学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。 ⑦教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。
	秋学期	①教育に関する思想、教育制度、教育の歴史などについて基本的な知識を得る。 ②現在の教育の実態や課題を理解し、教育の本質や意義について自己の教育観を再構築する。 ③児童・生徒の心身の発達及び学習の過程、教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ④教職課程の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 ⑤総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能を習得する。 ⑥学校教育全体における特別活動の意義の理解及びその特質を踏まえた知識・素養の修得。 ⑦情報に関して倫理的態度をもち、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を身につける。 ⑧学習指導要領を理解し、国語の授業を行うための基礎的な知識と教材研究の方法を身につける。 ⑨教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連付けて理解する。 ⑩日本語、日本文学、語学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。 ⑪教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。
3年次	春学期	①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念や仕組み、指導の教育方法と教育内容を理解する。 ②生徒指導の意義と原理、生徒集団全体への指導、個別の課題を抱える個々の生徒への指導を理解する。 ③教育相談についての基礎知識、関連技法、喫緊の課題について学び、実習を通じて技法を身につける。 ④教育実習に向けての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ⑤課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業展開・教材開発をすることができる。 ⑥中学校国語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
	秋学期	①教科指導および教育相談に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ②特別支援教育の視点から学習指導、児童生徒の発達や特別なニーズについて理解し、介護等体験に臨む。 ③中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を自ら設定する。 ④進路指導・キャリア教育の内容や意義について学び、学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 ⑤教科に関する専門的な考察を行うことで学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ⑥国語科の基本的な授業運営の仕方を、演習を通して身につける。
4年次	春学期	①教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ②教員としての資質を発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ③児童・生徒理解及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ④教育実習に取り組み、自他の実践を観察・省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。
	秋学期	①自己の課題を発見し、現代的教育課題について自律的に取り組む。 ②自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ③これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論をもとに、自己課題を追求する。 ④教職実践演習により、教職の意義と社会的責任を理解し、国語科教員として教育現場の課題をどのようにして解決するか、考えをまとめ、今後の取り組みについて発表する。

様式第7号ウ（教諭）

<日本語日本文化学科>（認定課程：中一種国語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				言語学入門		体育又は学外体育	日本語教育概論Ⅰ
					日本語文法		英語Ⅰ	
					日本文化基礎Ⅰ		ITスキルⅠ	
	秋学期						日本国憲法	
					日本語学入門		体育又は学外体育	日本語教育概論Ⅱ
					日本文化基礎Ⅱ		英語Ⅱ	
2年次	春学期						ITスキルⅡ	
		2 C		教職概論	日本文化基礎Ⅲ		英語Ⅲ	表現力実践
		2 D		教育制度論	日本文化基礎Ⅴ			
		3 H		道德教育の指導法	漢文Ⅰ			
	秋学期	4		スクールインターンシップ	書道Ⅰ			
		2 B		教育原理	日本文化基礎Ⅳ		英語Ⅳ	世界の教育
		2 E		発達心理学	漢文Ⅱ			教育コミュニケーション
		3 I・J		総合的な学習・特別活動の指導法(教育課程論含む)	書道Ⅱ			
		3 K		教育方法論(ICT活用含む)				
		1 A		国語科指導法Ⅰ				
3年次	春学期	2 F		特別支援教育	日本文化特講Ⅸ			教材とメディアリテラシー
		3 L		生徒指導論				
		3 M		教育相談				
		1 A		国語科指導法Ⅱ				
		1 A		国語科指導法Ⅲ				
	秋学期	3 N		進路指導論				社会言語学
		1 A		国語科指導法Ⅳ				
		4		教育実習Ⅰ				
4年次	春学期	4		教育実習Ⅱ				
	秋学期	4		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<日本語日本文化学科>(認定課程:高一種国語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	①教育についての基礎的知識を得る。 ②現代教育に関する基礎的基盤(日本国憲法を含む)を理解する。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④日本語、日本文学等の教科内容の基礎について理解する。
	秋学期	①教育についての基礎的認識を図り、教科内容について理解する。 ②教育についての基礎的知識を得る。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④日本語、日本文学等の教科内容の基礎について理解する。
2年次	春学期	①教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自らの教職キャリア形成を展望する。 ②教育に関する理念と歴史、制度について理解する。 ③参観実習(スクールインターンシップ)を通して、教科指導以外の教師の職務に触れ、生徒理解や組織運営の全体像を把握する。 ④教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連付けて理解する。 ⑤日本語、日本文学、語学、漢文学等の教科内容の基礎について理解する。 ⑥教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。
	秋学期	①教育に関する思想、教育制度、教育の歴史などについて基本的な知識を得る。 ②現在の教育の実態や課題を理解し、教育の本質や意義について自己の教育観を再構築する。 ③児童・生徒の心身の発達及び学習の過程、教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ④教職課程の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 ⑤総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能を習得する。 ⑥学校教育全体における特別活動の意義の理解及びその特質を踏まえた知識・素養の修得。 ⑦情報に関して倫理的態度をもち、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を身につける。 ⑧学習指導要領を理解し、国語の授業を行うための基礎的な知識と教材研究の方法を身につける。 ⑨教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連付けて理解する。 ⑩日本語、日本文学、語学、漢文学等の教科内容の基礎について理解する。 ⑪教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。
3年次	春学期	①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念や仕組み、指導の教育方法と教育内容を理解する。 ②生徒指導の意義と原理、生徒集団全体への指導、個別の課題を抱える個々の生徒への指導を理解する。 ③教育相談についての基礎知識、関連技法、喫緊の課題について学び、実習を通じて技法を身につける。 ④教育実習に向けての実践力を養うために、高等学校教育現場を体験する。 ⑤課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業展開・教材開発をすることができる。 ⑥高等学校国語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
	秋学期	①教科指導および教育相談に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ②特別支援教育の視点から学習指導、児童生徒の発達や特別なニーズについて理解し、介護等体験に臨む。 ③高等学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を自ら設定する。 ④進路指導・キャリア教育の内容や意義について学び、学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 ⑤教科に関する専門的な考察を行うことで学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ⑥国語科の基本的な授業運営の仕方を、演習を通して身につける。
4年次	春学期	①教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ②教員としての資質を発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ③児童・生徒理解及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ④教育実習に取り組み、自他の実践を観察・省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。
	秋学期	①自己の課題を発見し、現代的教育課題について自律的に取り組む。 ②自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ③これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論をもとに、自己課題を追求する。 ④教職実践演習により、教職の意義と社会的責任を理解し、国語科教員として教育現場の課題をどのようにして解決するか、考えをまとめ、今後の取り組みについて発表する。

様式第7号ウ（教諭）

<日本語日文化学科>（認定課程：高一種国語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				言語学入門		体育又は学外体育	日本語教育概論Ⅰ
					日本語文法		英語Ⅰ	
					日本文化基礎Ⅰ		ITスキルⅠ	
	秋学期						日本国憲法	
					日本文化基礎Ⅱ		体育又は学外体育	日本語教育概論Ⅱ
					日本文化基礎Ⅵ		英語Ⅱ	
2年次	春学期	2 C		教職概論	日本文化基礎Ⅴ		英語Ⅲ	表現力実践
		2 D		教育制度論	日本文化基礎Ⅶ			
		4		スクールインターンシップ	漢文Ⅰ			
	秋学期	2 B		教育原理	日本語学入門		英語Ⅳ	世界の教育
		2 E		発達心理学	日本文化基礎Ⅷ			教育コミュニケーション
		3 I・J		総合的な学習・特別活動の指導法（教育課程論含む）	漢文Ⅱ			
		3 K		教育方法論（ICT活用含む）				
		1 A		国語科指導法Ⅰ				
3年次	春学期	2 F		特別支援教育	日本文化特講Ⅱ			教材とメディアリテラシー
		3 L		生徒指導論	日本文化特講Ⅲ			
		3 M		教育相談				
		1 A		国語科指導法Ⅱ				
		1 A		国語科指導法Ⅲ				
	秋学期	3 N		進路指導論				社会言語学
		1 A		国語科指導法Ⅳ				
		4		教育実習Ⅰ				
4年次	春学期	4		教育実習Ⅱ				
	秋学期	4		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

＜英語コミュニケーション学科＞（認定課程：中一種英語）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	①教育についての基礎的知識を得る。 ②現代教育に関する基礎的基盤(日本国憲法を含む)を理解する。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④英語のコミュニケーション能力とは何かを理解し、自律的な学習を開始する。 ⑤異文化理解の視点から、英語文化についての知識を深める。
	秋学期	①教育についての基礎的認識を図り、教科内容について理解する。 ②教育についての基礎的知識を得る。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④音声言語を中心に英語の4技能を高める。 ⑤英語文化にさらに慣れ親しみ、異文化とは何かを理解する。
2年次	春学期	①教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自らの教職キャリア形成を展望する。 ②道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ③教育に関する理念と歴史、制度について理解する。 ④参観実習(スクールインターンシップ)を通して、教科指導以外の教師の職務に触れ、生徒理解や組織運営の全体像を把握する。 ⑤教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連付けて理解する。 ⑥教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。 ⑦英語音声学、英文法、英作文の演習を通して、さらに英語の知識・技能並びに運用能力を高める。
	秋学期	①教育に関する思想、教育制度、教育の歴史などについて基本的な知識を得る。 ②現在の教育の実態や課題を理解し、教育の本質や意義について自己の教育観を再構築する。 ③児童・生徒の心身の発達及び学習の過程、教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ④教職課程の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 ⑤総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能を習得する。 ⑥学校教育全体における特別活動の意義の理解及びその特質を踏まえた知識・素養の修得。 ⑦情報に関して倫理的態度をもち、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を身につける。 ⑧学習指導要領を理解し、英語の授業を行うための基礎的な知識と教材研究の方法を身につける。 ⑨教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。 ⑩英語音声学、英文法、英語学や、英語でのプレゼンテーションやスピーチ演習等を通して、さらに英語の知識・技能を高める。 ⑪異文化理解の視点を持って、英語文化についての知識を蓄積する。
3年次	春学期	①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念や仕組み、指導の教育方法と教育内容を理解する。(特別支援) ②生徒指導の意義と原理、生徒集団全体への指導、個別の課題を抱える個々の生徒への指導を理解する。 ③教育相談についての基礎知識、関連技法、喫緊の課題について学び、実習を通じて技法を身につける。 ④教育実習に向けての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ⑤課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業展開・開発をすることができる。 ⑥中学校英語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。 ⑦英語学、英米文学論等によって、専門的な知識・技能をさらに充実させる。
	秋学期	①教科指導および教育相談に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ②特別支援教育の視点から学習指導、児童生徒の発達や特別なニーズについて理解し、介護等体験に臨む。 ③中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を自ら設定する。 ④進路指導・キャリア教育の内容や意義について学び、学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 ⑤教科に関する専門的な考察を行うことで学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ⑥英語授業についての認識を深め、模擬授業などを行って、教育実習に備える。
4年次	春学期	①教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ②教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・真価・統合を図る。 ③児童・生徒理解及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ④教育実習に取り組み、自他の実践を観察・省察し、英語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。 ⑤教育実習の体験と省察から、英語科教員に求められる実践力と理論的基盤を結びつける。
	秋学期	①自己課題を発見し、現代的教育課題について自律的に取り組む。 ②自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ③これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ④教職実践演習により、教職の意義と社会的責任を理解し、英語科教員として教育現場の課題をどのようにして解決するか、考えをまとめ、今後の取り組みについて発表する。

様式第7号ウ（教諭）

<英語コミュニケーション学科>（認定課程：中一種英語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				英米文学研究Ⅰ		体育又は学外体育	第二言語習得論
					異文化コミュニケーション		英語Ⅰ	
							ITスキルⅠ	
							日本国憲法	
	秋学期				英語学		体育	短期外国語現地実習
					英語音声学		英語Ⅱ	
					英米文学研究Ⅱ		ITスキルⅡ	
2年次	春学期	2 C		教職概論	Communicative Grammar		英語Ⅲ	児童英語教育
		2 D		教育制度論	英語コミュニケーション基礎Ⅰ			
		3 H		道德教育の指導法	Academic Reading and Writing			
		4		スクールインターンシップ	Talks and Presentations			
	秋学期	2 B		教育原理	英語コミュニケーション基礎Ⅱ		英語Ⅳ	世界の教育
		2 E		発達心理学	英語圏の歴史と文化			教育コミュニケーション
		3 I・J		総合的な学習・特別活動の指導法(教育課程論含む)				
		3 K		教育方法論(ICT活用含む)				
		1 A		英語科指導法Ⅰ				
3年次	春学期	2 F		特別支援教育	World Literature in English			教材とメディアリテラシー
		3 L		生徒指導論				
		3 M		教育相談				
		1 A		英語科指導法Ⅱ				
		1 A		英語科指導法Ⅲ				
	秋学期	3 N		進路指導論				社会言語学
		1 A		英語科指導法Ⅳ				
		4		教育実習Ⅰ				
4年次	春学期	4		教育実習Ⅱ				
	秋学期	4		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<英語コミュニケーション学科>(認定課程:高一種英語)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	①教育についての基礎的知識を得る。 ②現代教育に関する基礎的基盤(日本国憲法を含む)を理解する。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④英語のコミュニケーション能力とは何かを理解し、自律的な学習を開始する。 ⑤異文化理解の視点から、英語文化についての知識を深める。
	秋学期	①教育についての基礎的認識を図り、教科内容について理解する。 ②教育についての基礎的知識を得る。 ③教職に関する基礎的素養(体育・語学・情報)を習得する。 ④音声言語を中心に英語の4技能を高める。 ⑤英語文化にさらに慣れ親しみ、異文化とは何かを理解する。
2年次	春学期	①教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自らの教職キャリア形成を展望する。 ②教育に関する理念と歴史、制度について理解する。 ③参観実習(スクールインターンシップ)を通して、教科指導以外の教師の職務に触れ、生徒理解や組織運営の全体像を把握する。 ④教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連付けて理解する。 ⑤教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。 ⑥英語音声学、英文法、英作文の演習を通して、さらに英語の知識・技能並びに運用能力を高める。
	秋学期	①教育に関する思想、教育制度、教育の歴史などについて基本的な知識を得る。 ②現在の教育の実態や課題を理解し、教育の本質や意義について自己の教育観を再構築する。 ③児童・生徒の心身の発達及び学習の過程、教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ④教職課程の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 ⑤総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能を習得する。 ⑥学校教育全体における特別活動の意義の理解及びその特質を踏まえた知識・素養の修得。 ⑦情報に関して倫理的態度をもち、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を身につける。 ⑧学習指導要領を理解し、英語の授業を行うための基礎的な知識と教材研究の方法を身につける。 ⑨教職に関する基礎的素養(語学)を習得する。 ⑩英語音声学、英文法、英語学や、英語でのプレゼンテーションやスピーチ演習等を通して、さらに英語の知識・技能を高める。 ⑪異文化理解の視点を持って、英語文化についての知識を蓄積する。
3年次	春学期	①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念や仕組み、指導の教育方法と教育内容を理解する。 ②生徒指導の意義と原理、生徒集団全体への指導、個別の課題を抱える個々の生徒への指導を理解する。 ③教育相談についての基礎知識、関連技法、喫緊の課題について学び、実習を通じて技法を身につける。 ④教育実習に向けての実践力を養うために、高等学校教育現場を体験する。 ⑤課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業展開・開発をすることができる。 ⑥高等学校英語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。 ⑦英語学、英米文学論等によって、専門的な知識・技能をさらに充実させる。
	秋学期	①教科指導および教育相談に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ②特別支援教育の視点から学習指導、児童生徒の発達や特別なニーズについて理解し、介護等体験に臨む。 ③高等学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を自ら設定する。 ④進路指導・キャリア教育の内容や意義について学び、学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。 ⑤教科に関する専門的な考察を行うことで学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ⑥英語授業についての認識を深め、模擬授業などを行って、教育実習に備える。
4年次	春学期	①教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ②教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・真価・統合を図る。 ③児童・生徒理解及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ④教育実習に取り組み、自他の実践を観察・省察し、英語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。 ⑤教育実習の体験と省察から、英語科教員に求められる実践力と理論的基盤を結びつける。
	秋学期	①自己課題を発見し、現代的教育課題について自律的に取り組む。 ②自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ③これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ④教職実践演習により、教職の意義と社会的責任を理解し、英語科教員として教育現場の課題をどのようにして解決するか、考えをまとめ、今後の取り組みについて発表する。

様式第7号ウ（教諭）

<英語コミュニケーション学科>（認定課程：高一種英語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				英米文学研究Ⅰ		体育または学外体育	第二言語習得論
					異文化コミュニケーション		英語Ⅰ	
							ITスキルⅠ	
							日本国憲法	
	秋学期				英語学		体育または学外体育	短期外国語現地実習
					英語音声学		英語Ⅱ	
					英米文学研究Ⅱ		ITスキルⅡ	
2年次	春学期	2 C		教職概論	Communicative Grammar		英語Ⅲ	児童英語教育
		2 D		教育制度論	英米児童文学			
		4		スクールインターンシップ	比較文化論Ⅱ			
					Talks and Presentations			
	秋学期	2 B		教育原理	Academic Reading and Writing		英語Ⅳ	世界の教育
		2 E		発達心理学	英語圏の歴史と文化			教育コミュニケーション
		3 I・J		総合的な学習・特別活動の指導法（教育課程論含む）				
		3 K		教育方法論（ICT活用含む）				
		1 A		英語科指導法Ⅰ				
3年次	春学期	2 F		特別支援教育	World Literature in English			教材とメディアリテラシー
		3 L		生徒指導論				
		3 M		教育相談				
		1 A		英語科指導法Ⅱ				
		1 A		英語科指導法Ⅲ				
	秋学期	3 N		進路指導論				社会言語学
		1 A		英語科指導法Ⅳ				
		4		教育実習Ⅰ				
4年次	春学期	4		教育実習Ⅱ				
	秋学期	4		教職実践演習（中・高）				